



Yasunori TAMANE

伝習農場むそう塾 代表の 玉根 康德さん

きっかけは？

農地の所有権は個々の農家にあるが、後継者難と高齢化で耕作放棄される農地は拡大するばかり、「土地は誰のもの？...地球は誰のもの？」と問うと耕作放棄は許されることではない。一方で、団塊の世代のリタイアで家庭菜園志向はますます高まると予想される。大量リタイアの現象は、都市と農村、双方に同時に進行する時代に突入しようとしている。この時期に、双方の間に入り、菜園志向の市民を対象にしっかりした循環型農法を伝授し、農地を斡旋するシステムの構築が急務である。
むそう塾は、そういう時代の要請に一役買えたらと開設した農業塾である。

むそう塾とまちづくり...

むそう塾にかかわる人は農家と菜園志向者だけではない。福祉作業所、民間の研究機関、造園業者、他の活動団体や商店など多様なかわりを広げつつある。そしてむそう塾のキーワードは「求心力のはたらくまちづくり」。「わがまち」のこととなると誰もが無関心ではいられないまちを作りたい。

北海道生まれ。
1980年、それまで続けてきた慣行農法に行き詰まりを感じていたときに市内の生協支部と出会い提携、有機農業（完全無農薬、無化学肥料）に着手。
有機農業歴30年の経験を活かして、安全美味な野菜づくりを目指しながら模索している菜園志向の皆さんの役に立てたらと、2002年4月「伝習農場むそう塾」を開設、現在にいたる。

● 私にとってのCB

生ゴミのリサイクル、堆肥化に挑戦する自治体や市民グループなどさまざまだが、いずれも構想通りには行かないのが実態のようだ。ましてや企業によるビジネス化などは想定外。生ゴミのリサイクルには労力や経費がかかり、ローコスト事業に乗りにくいという理由の他に、市民の意識改革がついていけないからかもしれない。そこで、経費がかからず、コストを気にする必要のないむそう塾の実践こそコミュニティビジネスだと自負している。めいめいが自分の家庭の生ゴミを自分の菜園の肥やしにする実践である。
ビジネス感覚では果たせないことを、市民の力で取り組み達成することこそ、コミュニティビジネスの真髄といえる。

● 起業するための3つの秘訣

しっかりした目標、
理念を持つこと

広く社会の共感、評価
を得られる事業で
あること

信頼できる仲間、
スタッフを持つこと

伝習農場むそう塾

■ 連絡先

TEL 04 - 7182 - 9100

FAX 04 - 7182 - 9100

E - mail

auoi@msj.biglobe.ne.jp

Web

<http://musouid.hp.infoseek.co.jp/>

■ 組織概要

予算規模 1,500,000円

会員・社員数 会員40名

事業
概要

むそう塾の事業内容と特徴

- 完全無農薬、無化学肥料による野菜づくりの指導
- 身近な素材（野菜の残渣・雑草・家庭生ゴミなど）を生かした土作り
- 天然素材の手づくり農薬（唐辛子・ニンニク・酢・焼酎・木酢液）

PR

むそう塾では次のような方を募集しています。

利用者（入塾者）

重機オペレーター（パワーショベル、ホイールローダなど）
物作りに興味のある方（大工、木工その他）